

人生の終末期について一度考えてみましょう。

年齢を重ねていくと、いずれ体力が落ち、食欲も減ってきて、筋力も衰え、次第に歩くことも困難になります。老化現象に伴う廃用は、誰にも訪れる当たり前の道程です。血液透析患者様の場合は、徐々に通院透析が困難になっていきます。送迎車にも乗車出来なくなります。

そうすると、最終的には入院か在宅での透析治療を選択する必要があります。「入院での透析」を選ぶか、「在宅での透析」を選ぶかは、自身の選択によります。（※在宅透析の代表は腹膜透析です。）

入院患者の方の約8割が病院外で死にたいと望むという事実が物語っています。最期に見える景色が、家族の顔や安心できる住んでいる場所であることは、最高の幸せと言えるかもしれません。

また、人生の最期は患者さん自身のものだけではありません。見守る家族も家で看取ることができるということは、幸せなことなのです。

生きることは死ぬことです。いつか来る最期を決めるのはご自身であり、家族なのです。コロナ禍が終わり、初めての年末年始で、家族と集まる機会が多いと思います。自分が衰えた時、自分が急変した時の対応など、この機会に自身の人生の終末期について話し合ってみてはどうでしょうか。

（腹膜透析は在宅で、全て訪問看護師に施行してもらう事が可能です。気になる方はスタッフまで気軽に相談してく下さい。）